

- ・ POBA : 狭窄部に POBA を行った場合、病理像で見ると硬い繊維性プラークは拡張できず柔らかなプラーク側に拡張されている。

- ・ BMS : BMS でも同様の像が認められる。尚、ステントの場合は、オーバーサイズのステントや不必要な高い圧は血管に進展刺激を与えてしまう為、再狭窄の原因になる。

また、ステント留置後に再狭窄を繰り返す例では炎症が高度であるが、再狭窄が起こらないような症例はステント周囲の平滑筋細胞が整って配列されている。

尚、ステントは金属物質であり、これを生体は異物と認識してしまう為、リンパ球やマクロファージが動員されステント周囲に炎症が起こる。

- ・ DES : DES はステントのストラットは 45 日を経過してもむき出し状態であり、4 ヶ月経てやっと部分的に内膜細胞が増殖してくる。しかし、まだストラットはむき出し状態である。DES では 11 ヶ月後に late thrombosis のために突然死を起こした症例もある。再狭窄は解決されてきたが late thrombosis などは解決されない。

- ・ 修復過程 : 拡張による損傷の修復過程は、中膜から平滑筋細胞の遊離・増殖が起こり、extra cell matrix から新生内膜増殖が起こる。